

8月19日（水） 総務文教常任委員会

- 調査件名**
- 広野駅東側開発について
 - JFAアカデミー福島への取り組みについて
 - 旧広野幼稚園舎の活用について

総務文教

広野駅東側開発

「町民の目から確認」

町から、広野駅構内の跨線橋へのエレベーターの設置について、新型コロナウイルスの影響によりJR東日本で行う設計業務の遅れなどを踏まえて今後の事業の進め方についての協議が続いているとの説明がありました。

また、新たに※AIスマートシティプロジェクト、医薬品開発に係る連携協力についても説明がありました。

いくとのことでした。医薬品開発に係る連携協力については、旧幼稚園舎の一部を活用して生物学、生理学などの専門的な知識を持った先生方と一緒に、子どもたちが実験やワークショップを行えるような拠点を整備できるように、検討を進めていきたいとのことでした。

※AI 人工知能

委員会報告

を報告します

AIスマートシティプロジェクトは、分野横断的なプロジェクトで、3者協定を締結している大和田測量設計（株）と東京大学内ベンチャー企業のアリスマー（株）と協力して、AI技術を活用して迅速なシミュレーションを行える河川のハザードマップの作成を始め、農業、医療の分野まで広げていくことを目標として進めて

総務文教

JFAアカデミー福島

アカデミー生の安全確保を

各委員から、アカデミー生の中学校卒業後の進路や、宿泊するサッカー支援センターの修繕やトレーニング機材等について質問がありました。

その他、震災後に男子寮を使用していた環境省や広域圏組合に対しての修繕等の対応要望や、アカデミー生の通学時の交通安全対策の徹底などを要望しました。



サッカー支援センター棟

総務文教

旧幼稚園舎の活用

芥川賞作品の展示を

委員からは、検討委員会からの提言内容にある、町民とを繋ぐ新たなコミュニケーションの場としていくことについて、駅西側の商店街等に関連の展示室や駐車場を造るなど具体的な計画はあるか質疑がありました。

また、旧幼稚園については耐震化等の改修を行い、交流施設として整備を進めていくとのことでした。

その他、委員からは、広野町は文化の町ということから、芥川賞の富澤有為男先生や額賀誠志先生の作品等を展示してはどうかとの意見がありました。

委員会

各常任委員会の活動状況

産業厚生

道の駅整備について

規模縮小後の進め方は

（株）東コンサルタントと田中・五社山特定建設工事共同企業体を参考人として出席いただき、土取り工事に係る土質調査が適正に行われたか聞き取りを行いました。参考人からはボーリング調査等について箇所数等は充分であり、このような事案は起こり得ると説明がありました。

各委員からは、今後整備した場合の概算金額3億6200万円の内容及びトイレ、休憩所及び駐車場で道の駅として認定を受けられるのか、二ツ沼直売所の機能拡充などについて質疑がありました。

町からは費用の内容は調整池、排水工、駐車場、植栽、展望エリア、トイレ、休憩所、水道施設、案内看板、二ツ沼拡充とこれに伴う実施設計費などで、道の駅の認定については条件は満たしており、登

産業厚生

農業振興

手厚い補助事業を



道の駅工事現場

各委員からは玄米に対する全量全袋スクリーニング検査はセシウムだけ対象になっており、ストロンチウムに対しては認識不足ではないか、被災12市町村農業者支援事業は専業農家のみが対象なのか、ほ場整備事業に係る補完工事の時期、AIを活用したスマート農業を進めるべき等の質疑がありました。

町より全袋検査は国の基準に基づき町で実施しているもので、改めてセシウム以外の検査を行う考えはないこと、小規模農家への支援については、広野町農地維持管理補助金により水田等作付けしている方に10a当たり20000円の補助金を交付していること、ほ場整備の補完工事の時期については、秋以降の補完工事に対応するとの県から回答があったこと、スマート農業については導入について検討していくとの説明がありました。

また、林業については、伐期を迎えている木材を販売するための計画はあるのか、福島森林再生事業の間伐時、道を作る際に出た木の販売金は所有者へ渡るか、森林に枯れ木が目立ってきているが把握しているのかとの質疑がありました。

町より森林環境譲与税を活用し調査を実施し事業を進めていくこと、販売代金は所有者に入ることを、枯れ木については状況を確認していくとの説明でした。

8月18日（火） 産業厚生常任委員会

- 調査件名**
- 道の駅整備について
 - 農林業の振興について